Japanese Journal of Applied Psychology
2004, Vol. 30, No. 1, 61-70

日本応用心理学会常任理事会議事録

2003年度第6回常任理事会議事録

日　時：2004年1月30日（土）午後6時～8時
場　所：東京富士大学本館第二会議室
出席者：岡村一成理事長，嘉部和夫副理事長，稲毛教子，浮谷秀一，荻野七重，垣本由紀子，田之内厚三，外島　裕，内藤哲雄，長塚康弘，馬場房子，林　潔，藤田主一，星野仁彦，松浦常夫
委任状：大橋信夫，坂野　登，大坊郁夫，南　隆男，蓮花一巳
名誉会員：（委任状；正田　亘）
事務局：浮谷秀一，関口和代

I　理事長より挨拶

II　報告事項

1.　委員会報告

1)　機関紙編集委員会（荻野委員長）
- 29巻2号は，2004年2月末刊行の予定。
- 投稿論文の審査状況について説明があった。
- 国際応心発表論文集は，2004年度発行予定。2003年末現在8件申込みがあり，2004年5月原稿締切の予定。

2)　認定「応用心理士」認定審査委員会（馬場委員長）
- 後期は5名を認定。
- 後期認定者の氏名は次号機関誌に掲載する。

3)　国際交流委員会（長塚委員長）
- 国際応心論文集について。
- 委員会開催はなし。

4)　シンポジウム委員会（松浦委員長）
- 11月開催の公開シンポジウムについて報告。
- 現在，テープ起こしを依頼中。発表者による校正の後，次年度機関誌に掲載する予定。

5)　研修委員会（林委員長）
- 第71回大会時の研修会講師は，正田　亘先生および小野公一先生。
- 第72回大会に向けて準備を進める予定。

6)　広報委員会（藤田委員長）
- 11月下旬に，新体制後初のニュースレター第9号を発行。
- ニュースレター第10号を年度末までに発行する予定。嘉部第71回大会準備委員長に巻頭言，各委員長に委員会報告，シンポジウム委員長の松浦先生に公開シンポジウム報告の執筆を依頼。また，今後は執筆者の掲載用写真の提供を依頼した。

7)　日本心理学会諸学会連合報告（稲毛先生）
- 12月13日に開催された。
- 審議事項は，次の4点。
  ①諸学会の，組織，会則，財政基盤，新規事業の整備・強化方針について
  ②基礎資格の認定，検定について
  ③認定心理士の資格委譲について
  ④倫理規定の制定

2.　2003年第70回大会について（森下委員長）
- 森下先生ご欠席のため，次回常任理事会にて会計報告を兼ねて報告の予定。

3.　2004年第71回大会について（嘉部準備委員長）
- 「現実生活と心理学」をテーマに開催する。
- 2号通信は，3月末～4月上旬に発行の予定。
- 事務手続の効率化を図るために，Web上での大会申込みおよび論文の受領を計画中。ただし，紙ベースによる従来型の対応も平行して行う。
- 研修会を2日間に分けることを検討中。
- 総会は最低でも1時間は必要である。委員会報告は，委員長や委員会の内容を会員にお知らせするために必要であるので，報告者の交代方法を工夫するなどして，短い時間でできるようにする。

4.　2005年第72回大会について（星野大会準備委員長）
- 星野仁彦大会準備委員長（福島学院大学）より挨拶。

III　審議事項

1.　会員名簿作成について
- 従来は3年に1回発行。新しい体制でスター

トしたということ，および今後の役員選挙のことを考慮して，2004年5月末に発行を予定している。従来は3月発行であったが，会員の異動などがあるので年度明け発行とする。

- プライバシーの保護に配慮する。
- 名簿記載事項は，①最終学歴，学位，②連絡先（自宅 or 勤務先，e-mail，電話番号は本人許可要），③勤務先（所属機関，職名および電話番号），④研究領域，⑤応用心理士資格（取得番号）とする。
- 生年月は，名簿には掲載しない。
- 倫理規程および投稿規程について掲載する。

2. 年次大会の業務委託について
- 国際文献印刷社へ大会関係業務を委託する。第71回大会（日本大学）から導入する。今後の大会についても同様に扱いをしていく。ただし，現在の方法も当面は続ける。
- 大会への学会補助は従来どおり，70万円の補助とする。ただし，院生・学生支援費をそれに含める。

3. 若手研究者支援委員会について
- 第70回大会より寄付のあった140万円を原資とした若手研究者支援活動を実施する。
- 活動内容などに関する協議を目的とした「若手研究者支援委員会」を設置することになった。
- 委員長として嘉部副理事長を理事長が推薦し，承認された。
- 委員長から，森下理事，玉井理事，田之内常任理事，浮谷事務局長が委員として委嘱された。

4. 新入会員審査および会員異動について
- 下記の新入会希望者8名について審査し，全員の入会が承認された。
  大森直樹，伊波和恵，深堀友覚，古岡三枝，吉田俊和，佐々木　孝，高橋秀和，宮下明大
- 退会者3名（関谷直子・大浪瑠夏・田中さつき）についても承認された。

※第7回常任理事会は，3月26日（金）午後6時からの開催の予定。

2003年度第7回常任理事会議事録

日　時：2004年3月26日（金）
　　午後6時～8時15分
場　所：東京富士大学本館第二会議室
出席者：岡村一成理事長，嘉部和夫副理事長，稲毛教子，浮谷秀一，荻野七重，垣本由紀子，田之内厚三，所　正文，外島　裕，内藤哲雄，馬場房子，林　潔，藤田主一，玉井寛，松浦常夫，南　隆男，森下高治第70回大会委員長
委任状：神作　博，坂野　登，鈴木由紀生，大坊郁夫，蓮花一巳
名誉会員：内海　晃（委任状；越河六郎，正田　亘）
事務局：浮谷秀一，関口和代，伊波和恵

I　理事長より挨拶

II　報告事項

1. 各委員会報告

1) 機関紙編集委員会（荻野委員長）
- 投稿論文の審査状況について説明があった。
- 国際応心発表論文集（7名応募）は，2004年度発行予定。
- 「応用心理学研究」執筆要領について検討中。

2) 認定「応用心理士」認定審査委員会（馬場委員長）
- 2003年度後期認定者5名の氏名は，次号機関誌およびニュースレターに掲載する。
- 2004年度前期分の受付期間は4月1日から5月31日。常任理事の先生方へは委員長より改めて案内する。

3) 学会賞（垣本委員長）
- 5月初めに各理事へ推薦依頼状を送付するので，6月初めまでにご推薦いただきたい。

4) 国際交流委員会（代理：垣本委員）
- 委員会開催はなし。

5) シンポジウム委員会（松浦委員長）
- テープ起こしの終了次第，記録に残すための資料作りを始める。

6) 研修委員会（林委員長）
- 第72回大会での開催内容について準備中。

7) 広報委員会（藤田委員長）
・第10号を3月31日付でニュースレターを発行する予定。6ページの予定。内容としては，嘉部第71回大会委員長の巻頭言，新名誉会員3名の方の寄稿文。委員会報告は，認定「応用心理士」認定審査委員会，学会賞・奨励賞選考委員会，シンポジウム委員会，研修委員会の4委員会からの報告。訃報欄1名。
8) 諸規程整備検討委員会（浮谷委員長）
・審議事項にて報告。

2. 2003年第70回大会について（森下委員長）
・資料を基に大会および会計の報告があった。
・公開シンポジウムB（児童虐待）の内容をまとめた冊子を常任理事に配布。

3. 2004年第71回大会について（嘉部大会準備委員長）
・2号通信は4月上旬に発送の予定。
・自主シンポジウムを予定。企画料は，正会員2,000円，大学院生1,000円。
・大学院生の応用心理学会離れを懸念している。多くの大学院生に参加していただきたいので，ご案内をお願いしたい。

4. 2005年第72回大会について（玉井大会事務局長）
・71回大会に複数で参加する。

5. その他（浮谷事務局長）
・名簿作成用の資料を提出依頼があった。

III 審議事項

1. 倫理綱領運用委員会（仮称）の設置について
・委員会の名称は「倫理委員会」とし，他の委員会と並立とする。
・倫理綱領を作成した藤田常任理事が委員長に就任することが承認された。
・委員の人数および選任は委員長に一任した。

2. 各種規程の整備について（浮谷委員長）
・名誉会員の推薦規程について審議した。意見を集約した上で，次回常任理事会にて再度提案することとなった。
・その他の規程については順次審議していく。

3. 新入会員審査および会員異動について
・下記の新入会希望者12名について審査し，全員の入会が承認された。
藤川　和，藤川秀幸，蓮見将敏，大友勝弘，林　祐司，星　薫，宇部弘子，村田悦子，藤京子，太刀掛俊之，金田聡子，小林桂子

4. その他
1) 追悼文について
名誉会員の死去に対する追悼文については，学会に対する貢献度や適切な追悼文執筆者の有無等を勘案し常任理事会にてその都度決定する。松村康平先生の追悼文については，林先生を通じて執筆を依頼。
2) 次回常任理事会にて予算を組みたいので，各委員会の委員長は4月末日までに今年度の決算報告と次年度事業計画および予算を提出するよう依頼された。
※2004年度第1回常任理事会は，5月14日（金）午後6時開催予定。
※2004年度第2回常任理事会は，7月3日（土）午後1時開催予定。

2004年度第1回常任理事会議事録

日　時：2004年5月14日（金）
午後6時～8時20分
場　所：東京富士大学本館第二会議室
出席者：岡村一成理事長，稲毛教子，浮谷秀一，大橋信夫，荻野七重，垣本由紀子，坂野　登，所　正文，内藤哲雄，馬場房子，林　潔，藤田主一，松浦常夫
委任状：大坊郁夫，細江達郎，南　隆男，蓮花一己
名誉会員：内海　晃（委任状；正田　亘）
事務局：浮谷秀一，関口和代，伊波和恵

I 理事長より挨拶

II 報告事項

1. 各委員会報告
1) 機関誌編集委員会（荻野委員長）
・2004年4月に29巻2号を発行した（2003年度発行分）。
・投稿論文の審査状況について説明があった。
・国際応用心理学会発表論文集の発行について説明があった。8件の申込みがあり，5月10日原稿締切（5/14現在，投稿数は3件）。2004年度内発行予定。
・「応用心理学研究」執筆規程について検討

中。とくに，連名も含む投稿者の資格について委員会での議論が議題としてあがり，本理事会において確認がなされた。その結果，従来どおり「正会員・名誉会員に限る」ことを運用規程として明記し，ニュースレターで広報することが承認された。

2) 認定「応用心理士」認定審査委員会（馬場委員長）
- 2004年度前期分の受付期間は5月31日まで。現在の応募者数は1名。

3) 学会賞・奨励賞選考委員会（垣本委員長）
- 現在，各理事への推薦依頼状を発送する準備中である。6月10日頃を推薦期限に予定している。
- 名誉会員の各賞への推薦の適否について話し合われ，今年度は従来どおり「慣例的に対象から外す」方針を踏襲することが確認された。

4) 国際交流委員会（代理：浮谷事務局長）
- 5月15日（土）に，委員会に関わる業務を行う予定。

5) シンポジウム委員会（松浦委員長）
- 公開シンポジウム記録については，現在，各シンポジストが校正中。

6) 研修委員会（林委員長）
- 第72回大会における第3回研修会の開催の参加者を募集中。参加者を募るために，さらに広報を行う必要があることが確認され，対応の仕方については事務局と協議することになった。

7) 広報委員会（藤田委員長）
- 3月に発行されたニュースレター第10号について報告があった（年2回発行予定）。
- ニュースレター第11号については，年次大会終了後に発行し，大会報告を掲載予定。

8) 日本心理学諸学会連合報告（稲毛常任理事）
- 3月27日第11回理事会が開催された。
- 理事の枠数について話し合われ，票決の結果，現行どおりの方法が承認された。
- 「認定心理士」資格が，日本心理学会から連合へ移管することが承認された。
- 連合会長には，森正義彦氏が，辻氏に代わって就任することが決まった。

9) 諸規程整備検討委員会（浮谷委員長）
- 審議事項にて報告。

10) 倫理委員会（藤田委員長）
- 委員会メンバーについて下記の原案が提出され承認された。（カッコ内は所属機関名）藤田主一委員長（城西大学），大坊郁夫常任理事（大阪大学），内藤哲雄常任理事（信州大学），田中真介理事（京都大学），松下由美子理事（山梨県立看護大学），山本　寛理事（青山学院大学）

2. 2004年度第71回大会について（代理：岡村理事長）
- 2号通信を4月に発送し，現在は発表者ならびに参加者受付中。

3. その他（事務局）
- 「学術会議法一部改正に伴う制度の変更等について」資料が配布された。

III　審議事項

1. 2003年度決算について
- 各委員会の2003年度決算報告に基づいて，事務局より仮決算が提出された。

2. 2004年度予算について
- 2004年度より，予算ならびに決算報告の形式を，委員会ごとで収支を独立させる形式に変更したい旨，事務局長より提案がなされ，承認された。
- 委員会ごとに2003年度実績を算出したうえで，2004年度の委員会活動費を予算化していく方針について，事務局長より説明があった。
- 倫理委員会活動費については，2004年4月1日付で予算化することが確認された。
- 予算額の調整ならびに折衝の機会および方法については，今後検討していくことになった。

3. 各種規程の整備について
- 名誉会員の推薦規程案が提出され，審議の結果，一部修正のうえ承認された。
- 本規程が平成16年4月1日より施行されることも承認された。
- その他の委員会規程の原案が提出された。今後，順次審議していくことになった。

4. 新入会員審査および会員異動について
・下記の新入会希望者15名について審査し，全員の入会が承認された。
小池はるか，岩本寿美枝，新藤美香，生水一美，渡部明美，奥村隆志，余村朋樹，竹内倫和，竹内規彦，原　光広，杉村正子，鈴木綾子，佐藤清公，上田豊樹，松本友一郎
5. その他
1) 国際応用心理学会との関係を学会として公に，直接的に保っているかどうか確認がなされた。現在はないが，今後は視野に入れることも提案された。
2) 倫理委員会の活動方針について，藤田委員長より，活動方針に関して確認があった。当面，倫理委員会内で規程等について検討していくこととなった。
※2004年度第2回常任理事会は，7月3日（土）午後1時開催予定。

2004年度第2回常任理事会議事録

日　時：2004年7月3日（土）午後1時～3時
場　所：東京富士大学本館第二会議室
出席者：岡村一成理事長，嘉部和夫副理事長，浮谷秀一，荻野七重，垣本由紀子，神作　博，坂野　登，田之内厚三，大坊郁夫，所　正文，外島　裕，長塚康弘，　馬場房子，林潔，藤田主一，松浦常夫，玉井　寛（星野仁彦代理）
委任状：稲毛教子，大橋信夫，内藤哲雄，細江達郎，南　隆男
名誉会員：（委任状；内海　滉，正田　亘）
事務局：浮谷秀一，関口和代

Ⅰ　理事長より挨拶
Ⅱ　報告事項
1. 各委員会報告
1) 機関誌編集委員会（荻野委員長）
・投稿論文の処理状況について説明があった。
・30巻1号は10月発行予定。
・国際応心発表論文特集号は，2004年度中に発行の予定。6月末現在投稿論文数6編（申込み8編）。1～2編増える予定。今後，審査と英文チェックを実施する。
2) 認定「応用心理士」認定審査委員会（馬場委員長）
・前半期は，12名の応募があり，そのうち11名を認定した。
・後半期の受付期間は10月1日から11月30日。大会でもアピールしたい。
3) 学会賞・奨励賞選考委員会（垣本委員長）
・学会賞については本日の常任理事会終了後に審議する。その後，常任理事への持ち回りで承認を得ることが認められた。
・奨励賞の推薦はなし。
4) 国際交流委員会（長塚委員長）
・5月15日に委員会を開催し，論文掲載原稿のチェックをした。シンガポールにてシンポジストとして登壇いただき非会員2名に寄稿を依頼した。寄稿願えない場合は記録をもとに紹介の形をとる。論文集の修正期限は9月末日とする。
5) シンポジウム委員会（松浦委員長）
・昨年度開催されたシンポジウムの内容を機関誌に掲載する。原稿の最終校正を7月下旬とする。
・今年度のシンポジウムは，12月25日（土）に国士舘大学（世田谷キャンパス・中央図書館地下多目的ホール）で，所常任理事を中心として開催する予定。テーマは「高齢化時代の健康とスポーツ（仮）」とし，シンポジスト4名（健康心理学・体育学・老年学・生涯教育の各分野より1名ずつ），コメンテータ1名，司会（所常任理事）にて実施の予定である。
6) 研修委員会（林委員長）
・会員に送付した研修会案内に誤りがあったので訂正した。
7) 広報委員会（藤田委員長）
・ニュースレター第11号は，大会終了後早々に発行したい。嘉部大会委員長の大会報告を掲載する予定である。
8) 倫理委員会（藤田委員長）
・構成委員が承認されたので，これから活動していく。
9) 諸規程整備検討委員会（浮谷委員長）
・審議のときに併せて報告する。

10) 若手研究者支援委員会（嘉部委員長）
・今後，活動を本格化していく。

2. 2004年第71回大会について（嘉部大会委員長）
・プログラム原案を作成している。ポスター発表は69件，口頭発表は28件の申込みがあった。トークインもポスター発表についても，もっと増やしたいのでまだ申込みを受け付けるのでよろしくとの依頼があった。
・1日目の昼に理事会，2日目の昼に会員総会を開催する。
・公開講演は，次の4件に決まった。
①マーケティングの実際
小野寺富男先生（(株)Gプラン）
②交通の心理学
野口　薫先生（日本大学文理学部）
③高齢者問題
内藤佳津雄先生（日本大学文理学部）
④未定
樋口紀男先生（日本大学商学部）
・記念講演の題目は「育ちなおし」について，講演者は，鳥山敏子氏（東京賢治の学校主宰/シュタイナー教育）である。
・研修会は，正田　亘先生および小野公一先生に担当していただく。
・大会申し込みは，Webと郵送とはほぼ半々であった。正確な数字は国際文献印刷社からまだ報告はない。

III　審議事項

1. 2003年度決算について
・事務局長より説明があり，承認された。

2. 2004年度予算について
・予算案について事務局長より説明があり，審議の結果一部を修正（国際文献印刷社への委託費を1,000,000円，システム開発費を400,000円に修正）のうえ，承認された。
・委員会活動費を委員長に渡したいので，振り込みなど都合のよい方法を申し出るように事務局長から依頼があった。

3. 各種規程について
・名誉会員規程は，次の4点の修正を確認し，承認された。①名誉会員推薦規程を名誉会員規程に修正する，②第5条3項の文言を修正する，③第3条「推戴」のことばを削除する，④規程内の3カ所の「就任者」を「経験者」へ変更する。

4. 今年度の名誉会員の推戴について
・今年度新たに該当する会員は3名。その中から，今年度は林　潔氏を名誉会員として推戴することを決定し，理事会に推薦することとした。

5. 年次大会開催校について
・第73回大会開催校として文京学院大学を承認した。本郷キャンパスあるいはふじみ野キャンパスにて開催。
・第74回大会開催機関について，理事長から自薦・他薦の依頼があった。

6. 新入会員審査および会員異動について
・下記の新入会希望者17名について審査し，全員の入会が承認された。
河内和直，秋元幸見，荒井庸子，大西一馬，影山敦子，清水亜佐子，田村勝美，岩倉　希，徳光紗妃，虎谷美保，冨重健一，吉田統子，飯田敏晴，吉田一子，久保田健市，尾関美喜，石橋富和
・その中の1名については，論文投稿があり，2003年度入会を条件として，論文審査を実施しているとの説明があった。

7. 年次大会開催時における理事会・常任理事会・会員総会の実施日程について
・大会開催前日の夕方に理事会，1日目昼食時に会員総会，2日目昼食時に常任理事会を実施したいとの提案があり審議した。提案理由は，①会員総会において承認を受ける前に，名誉会員（候補者）が懇親会に参加することになるのを避けるため，②大会中に，常任理事会を開催することで，各種の審議がスムースに進められるためとの説明があった。次回の理事会で提案し，承認がされれば次年度から実施することになった。

会員異動

2003年度新入会員（2003.4～2004.3）

麻生美由姫
　市川心理相談研究所
安彦　貴弘

山形県精神保健福祉センター
雨森　雅哉
文京学院大学大学院人間学研究科心理学専攻
安藤　百合子
東京都立豊島看護専門学校
池見　淳一
龍谷大学文学研究科
伊藤　忠之
青森県東津軽郡平内町立小湊小学校
今留　　忍
杏林大学保健学部
上田　晃子
龍谷大学大学院文学研究科教育学専攻臨床心理学領域
臼井　恵美
埼玉医科大学短期大学看護学科
大倉　健宏
福島学院大学福祉学部
大武　陽子
船橋市役所松が丘児童ホーム
大野　高志
文京学院大学大学院人間学研究科心理学専攻
大森　直樹
大阪医科大学附属病院放射線科
神谷　有里子
文京学院大学大学院人間学部研究科心理学専攻心理学コース
菊池　洋子
(独)国立病院機構釜石病院
木村　友昭
(財)エム・オー・エー健康科学センター
栗田　真樹
流通科学大学サービス産業学部
小西　奈美
国立精神・神経センター武蔵病院
小林　美穂子
北海道応用心理学教室
小牟田　美幸
大阪医科大学附属看護専門学校
薦田　未央
甲南女子大学
近藤　正樹
京都文教大学大学院臨床心理学研究科
佐伯　和香子
龍谷大学大学院文学研究科教育学専攻臨床心理学領域
佐々木　妙子
国立函館病院
佐々木　智城
北海道医療大学大学院看護福祉学研究科臨床心理学専攻
佐藤　恵美
白百合女子大学大学院文学研究科
施　　桂栄
(財)労働科学研究所研究部
滋野　和恵
北海道大学大学院教育学研究科
篠崎　由紀子
東京都立豊島看護専門学校
島田　　修
川崎医療福祉大学医療福祉学部臨床心理学科
下方　友子
山梨大学大学院
主濱　治子
都立板橋看護専門学校
鈴木　恵美子
水戸中央児童相談所・茨城県大宮町保健福祉センター・茨城県那珂町保健福祉センター
鈴木　智裕
龍谷大学大学院文学研究科教育学専攻臨床心理学領域
関本　潔子
日本大学第二中・高等学校
田井中　秀嗣
大阪府立看護大学
高橋　完介
立教大学文学研究科心理学専攻
髙橋　秀和
横浜市泉区役所福祉保健センター
高見　理恵子
文京学院大学大学院人間学研究科人間学専攻保育コース
高村　　茂
徳島県警察本部科学捜査研究所
武田　真弓
岩手大学大学院教育学研究科学校教育専攻（心理

学)
竹中　桂子
山梨大学医学部看護学科
九十九　綾子
関西福祉科学大学大学院社会福祉学研究科
土合　千春
北海道応用心理学教室 HU 相談室
道城　裕貴
関西学院大学大学院文学研究科
中尾　彩子
文京学院大学大学院人間学研究科心理学専攻心理学コース
中嶋　正実
北海道医療大学大学院看護福祉学研究科臨床福祉心理学専攻
中田　安真音
松江市立病院
中村　二三夫
福島学院短期大学
中村　美砂
鐘紡記念病院
仲本　美央
埼玉純真女子短期大学こども学科
西出　有輝子
川崎医療福祉大学大学院
二ノ村　玲子
RAY 心理研究所
楡木　佳子
立正大学大学院文学研究科哲学心理学コース
長谷中　崇志
流通科学大学
服部　隆志
川崎医療福祉大学大学院医療福祉学研究科臨床心理学専攻
濱田　秀彦
合資会社ヒューマンテック
姫野　深雪
産業医科大学
廣瀬　まゆみ
文京学院大学大学院人間学研究科心理学専攻臨床心理学コース
福島　泰子
NPO 法人心のケア・ステーション
星野　仁彦
福島学院大学福祉学部福祉心理学科
細田　　聡
関東学院大学
前田　明日香
立命館大学社会学研究科
真壁　綾子
(医)昌和会見立病院
真壁　　聡
(医)和光会一本松病院
松浦　里映
川崎医療福祉大学大学院臨床心理学専攻
松尾　千尋
文京学院大学大学院人間学研究科心理学専攻心理学コース
松見　淳子
関西学院大学文学部総合心理科学科
三井公一郎
日本大学文学研究科
宮下　明大
立命館大学
向山　泰代
京都ノートルダム女子大学人間文化学部生涯発達心理学科
森　　愛
兵庫県立淡路景観園芸学校園芸療法課程
森上　幸夫
大阪国際大学人間科学部
山内　和枝

山内　香奈
(財)鉄道総合技術研究所
吉田　俊和
名古屋大学大学院教育発達科学研究科
鑑　さやか
福島学院大学福祉学部福祉心理学科
林　　祐司
神戸大学海事科学部

2003 年度退会者名簿一覧

(50 名　2003.4～2004.3)

自主退会(50 名)

東　　清和，池田恵利子，稲田　幸男，猪口　武典，

上田　照子，上野　悦子，宇津木成介，大沢　武志，大塚　廣子，大浪　瑠夏，加藤　孝義，加藤　曜子，金村美千子，河合　　悟，川島佳千子，川村　晴美，下司　昌一，後藤　有美，小宮　澄代，近藤　隆雄，酒井久実代，阪本　敬彦，佐藤　研司，澤田　清方，須賀　京子，鈴木　貞夫，鈴木サチ子，鈴木百合子，関谷　直子，田中さつき，田中マキ子，田中みち代，玉内　裕美，徳田　　豊，永井　正一，南村　博二，濱上　征士，日高　英行，福山ひろみ，星野　隆助，三村　華子，宮川　数君，宮崎ユキ子，本村　久美，森明　光枝，諸富　宏行，山本　悠子，吉川　晴美，依田　光正，渡辺　裕子

逝去（2名）

謹んでご冥福をお祈りいたします。

江幡　玲子　2004年 2 月

松村　康平　2003年11月

住所不明（3名）

井上　寛之，斉藤早香枝，古川ひとみ

長期会費未納（17名）

安部　保子，泉山　中三，市橋　秀樹，梅崎　利香，大西　孝周，岡崎　竜太，桂　　晶子，東海林則子，高橋千世美，田中　厚志，竹間　　進，寺門　正顕，永井　末子，柳井　　修，山下　幸子，山下　雅子，和田　有史

寄贈文献 (2003.4～2004.3)

- 応用社会学研究　第14号
- 関係学研究　30巻1号，31巻1号
- 科学警察研究所報告　43巻1号
- 科学における不正行為とその防止について（日本学術会議学術と社会常置委員会）
- 学校教育学研究論集（東京学芸大学大学院）　第7号，第8号
- 学術の動向（日本学術協力財団）　2003.4～2004.3
- 学著協ニュース　No. 9
- 基礎心理学研究　第21巻2号，第22巻1号
- 研究助成報告書（(財)社会安全研究財団）　平成14年度
- 慶応義塾大学大学院　社会学研究科紀要　第55号，第56号
- 健康心理学研究　Vol. 16, No. 1～No. 2
- 国立身体障害者リハビリテーションセンター研究紀要　第23号，第24号
- 交通科学（大阪交通科学研究会）　Vol. 34, No. 1～No. 2
- 産業安全研究所安全ガイド　2004
- 産業安全研究所安全資料　No. 18
- 産業安全研究所技術指針　No. 37
- 産業安全研究所研究報告　2003, 2004
- 産業安全研究所特別研究報告　No. 28
- 産業安全研究所年報　平成14年度
- 心理教育相談所紀要（聖徳大学）　Vol. 1
- 指導と評価　2003.4～2004.3
- 児童教育研究　第13号
- 人事試験研究　No. 187～190
- 上智大学心理学年報　第27巻，第28巻
- スポーツ心理学研究　第29巻2号，第30巻1号
- 第10回交通調査・研究発表会要旨集　2003年10月
- 第19回ファジィシステムシンポジウム講演論文集
- 第34回国際シミュレーション＆ブーミング学会大会予稿集
- 筑波大学心理学研究　第26号，第27号
- テレビ・ラジオ番組個人視聴率調査　平成15年6月，平成15年11月
- 東海大学記要　第10号
- 東北教育心理学研究　第9巻
- 名古屋大学大学院　教育学科　第49巻1号，第50巻1号～2号
- 名古屋大学大学院　心理発達科学　第50巻
- 日本語教育通信　第46巻，第47巻，第48巻
- 日本子ども家庭総合研究所紀要　第39集
- 日本精神神経学会百年史
- 日本複写権センターニュース　No. 11
- 博士学位論文要旨（学芸大学大学院）　第6号
- 発達研究（発達科学研究教育センター）　No. 17
- 別冊　医学のあゆみ　学会案内（医師薬出版株式会社）
- 母子保健情報　47号，48号
- 安田女子大学大学院開設十周年　―教育学編―　2003年12月

- 安田女子大学大学院文学研究科紀要　第8集，第9集
- 山梨大学教育人間科学部記要　第4巻1号，2号，第5巻1号～2号
- 臨床発達心理士認定申請ガイド　2004年度版
- 東京学芸大学紀要　第1部門教育科学　第54集，第55集
- Comparative Analysis of Mind
- IATSS Review
- JAPANESE HEALTH PSYCHOLOGY, No. 10
- NHK放送研究と調査
- NII Journal, No. 6～No. 8